



相模原生活科・総合的な学習研究会 柴胡の会 2月研究会(第60回)

令和6年2月10日(土)
会場：相模原市民会館
参加者45名(オンライン参加12名含む)

研究テーマ

「『探究する子供』の育て方」

1. 情報提供 「主体的な学び手を育てる授業づくり」
埼玉県立伊奈学園中学校 松倉 紗野香 先生

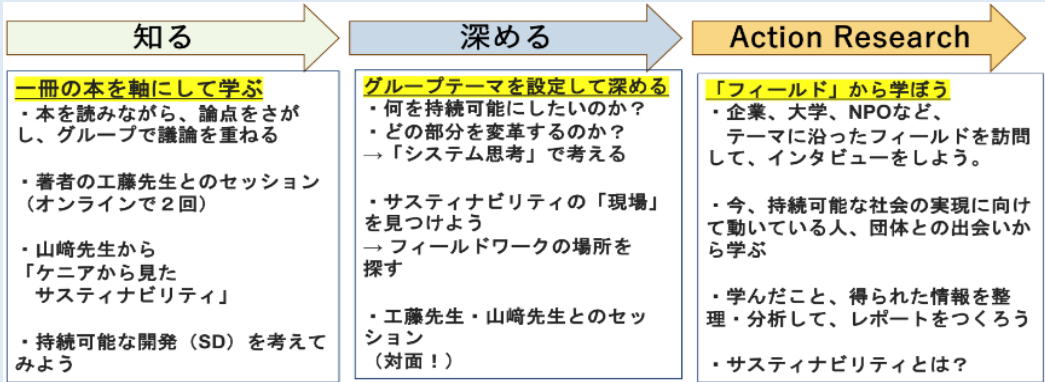
【中学総合の課題】

- 行事等の抱き合わせで単発で終わってしまう。
- 企業とコラボしても、企業主体で進んでしまう。

【最上位の目標】

平和で持続可能な社会の実現

【2年生の実践例】



- 〈知る〉
- 何か違うという違和感を大切に。
- 言葉にこだわって考える。
- 〈深める〉
- サステナビリティ×○○でグループごと研究計画を立てる。
- 協力者から「何を持続可能にしたいの?」などの問い返し。
- 〈Action Research〉
- 自ら問いをつくることを大切にする。
- サステナビリティを自分の言葉に置き換えて考える。

2. 「『探究心』を生み出す総合的な学習の時間の展開」
文部科学省 初等中等教育局 教育課程科 教科調査官
愛知淑徳大学 文学部 教育学科 准教授 加藤 智 先生

【なぜ「探究」が必要なのか】

高校の学び方(意欲、真面目さ、探究)が大学や社会人になってからの学びにつながり「幸せ&活躍」を実現させる

しかし

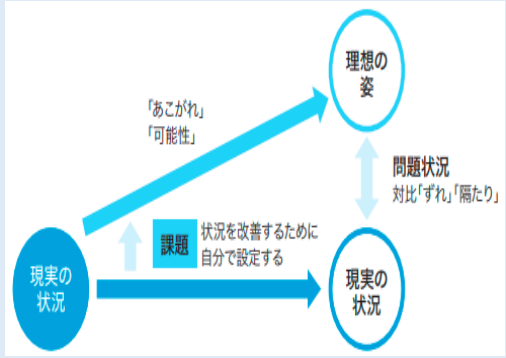
現状、多くの高校における学ぶ意欲は高くない。
「入試に役立つんですか?探究したい事なんてありません」
→小・中学校で探究心が育まれているのか?

【探究心の根幹は「情動」】

情動とは「楽しかった」などの単なる生物学的反応ではなく、文化、社会、個々の経験などによって形成される解釈プロセス
「共感」「責任感」なども信念や経験に基づく情動の一つ
○情動がなければ探究が自分事(わが事)にはならない
○頭がよくないと探究ができないというのは間違い

【「情動」を高めるために】

- 情動が発生するストーリーを描く学習が重要。
- ズレがあると課題が生まれる。
- 本物に触れる、大人の本気を見せることも重要。
- リフレクションをして学びや体験を残していくことも大切。
- 常識を疑い、自己を問い直すことで情動を含んだ自分事の問題となる



3. シンポジウム『探究する子供』の育て方

加藤 智 先生・松倉 紗野香先生
三井 輝夫 先生 (淵野辺小学校)
宮崎 憲太郎 先生 (もえぎ台小学校)
蛭田 慶太 先生 (横山小学校)

【材との出会わせ方のポイントは？(三井先生)】

松：「世界がもし100人の村だったら」など本を使って導入することがある。そこから、体験やワークショップをおこない、段々と自分の中に。

加：それは、ある意味バーチャルな体験だが、松倉実践の良さは、そこから論点を探し、議論を重ねたところにある。

松：知識がないと探究ができないわけではない。文字にまとめていくことで、思いを共有できた。

三：出会いから、意欲を長続きさせるには？

宮：楽しさを知るとやる気が上がる。新たな知識の獲得も、達成感につながる。

【なぜ探究が必要？と子供に聞かれたら？(宮崎先生)】

松：何でだと思う？と問い返し、一緒に考える。みんな試行錯誤している。それこそが探究。

加：大学生でも、どこかに正解があると思っている。答えがない問題が浮き彫りになってきている時代。

三：失敗はさせたいと思っている。

加：何が失敗かは分からない。失敗も教育的には成功。

松：理想像を先生たちで共有しておくことが大切。

【答えがない単元の最後はどうする？(三井先生)】

松：問題解決ありきになりがちだが、問題を解決することは簡単なことではない。分からなかったという結論も大切。

加：そこからは将来の宿題。

今月の学び (研究部によるまとめ)

「異校種間での探究する姿の共有が重要」

【探究の系統性】

○高校の「探究」を1つのゴールイメージとする

総合的な探究の時間の目標は「自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力」を育成を目指すとされている。高校で、一人一人が自己の在り方や生き方を考えながら探究する力を発揮するために、小中学校から、系統的に問題解決能力を高めていく必要がある。

○探究の高度化と自律化

探究が高度化 (整合性・効果性・鋭角性・広角性など) した姿や自律化 (自己課題・運用・社会参画など) した姿を明確にし、それが中学生、小学生ではどのような姿として現れるのかを想定して計画を立てていく必要がある。

【子供たちの探究を促す共通のポイント】

○子供たちの情動に基づいた学習

子供たちが、解決すべき問題を見つけ、わが事として解決に向かっていくためには、子供たちの情動が発生するような「材」「学習計画 (ストーリー)」「協力者 (本物との出会い)」「地域との連携」などが大切である。

○試行錯誤をしながら学びを進める経験

失敗も教育的には成功であるという言葉を目に銘じ、子供たちの学びを見守ったり、サポートしたりすることが重要。教師は子供を先導するのではなく、ともに進んだり、伴走したりという役割を意識する。特に総合では、ファシリテーターとしての立ち位置を基本とし、時にはイノベーターやメンターとしての役割も果たしていく。

柴胡の会 今後の取り組み

【それぞれの校種で目指す探究の姿を具体的にイメージする】

そのために必要なこと

○中学・高校の実践発表を増やし、事例を通して学びを積み上げる

<文責>

九沢小学校 鈴木真樹
柴胡の会 研究部一同